

## 池田浩美 ～Hiromi Ikeda～サッカー元なでしこジャパンキャプテン



元サッカーなでしこジャパンチームキャプテン

京都文教中学校・高校女子サッカー部 アドバイザー・コーチ

NHK サッカーなでしこジャパンロンドン五輪予選ゲストコメンテーター

1975年12月22日生まれ、埼玉県出身。

本庄第一高等学校卒業後、田崎ペルーレに入団、主なポジションはディフェンダー。小学校時代はバレーボール、中学校では陸上競技に取り組んでおり、高校で好きになった人がサッカーをしているのを見て自分も始めたという、異例の経験の持ち主。

なでしこリーグでは、新人賞獲得を皮切りに、ベストイレブン9回、敢闘賞2回獲得という、輝かしい成績を収め、2004年アテネ五輪ではゲームキャプテンとしてチームを牽引、大きく貢献。その後、2007年FIFA女子W杯では既婚者プレーヤーとして旧姓の「磯崎」から「池田」に改姓しての出場となった。

2008年東アジア選手権では優勝、なでしこジャパン初タイトルに大きく貢献したが、同年所属チームの休部に伴い、惜しまれつつも引退。

現なでしこJAPANの佐々木監督とは、コーチ時代から代表メンバーとして一緒に戦っており、佐々木監督以降もキャプテンを務め、現キャプテンの澤選手の前任でもある。

### 【経歴】

- 1989年 埼玉県上里町立上里東小学校卒業
- 1992年 埼玉県上里町立上里中学校卒業
- 1995年 埼玉県 本庄第一高等学校卒業
- 1995年 田崎ペルーレ入団
- 1997年 親善試合でなでしこジャパン初選出
- 1999年 FIFA 女子世界選手権出場
- 2003年 FIFA 女子W杯出場
- 2004年 アテネ五輪出場
- 2007年 FIFA 女子W杯出場
- 2008年 東アジア女子サッカー選手権大会 優勝
- 2008AFC 女子アジアカップ3位
- 北京五輪4位入賞

【代表キャップ数】 119試合出場、4得点

### 【個人タイトル】

- 新人賞 1995年
- 敢闘賞 2005年、2007年
- ベストイレブン 1999年～2008 年まで

### 【著書】



「荒れ地に花は咲くーサッカーへたくそ少女、なでしこジャパンの飛躍を支える」  
ヴァレッジより出版)



## 【主な講演テーマと内容】

### 「バントッチでつないだ、なでしこ・佐々木日本のキャプテンシー」

なでしこ日本のキャプテン澤穂希選手の前任として、チームを牽引し  
佐々木監督の下で飛躍の一端を築いた

2008年北京五輪での4位入賞。当時のキャプテンとして、佐々木監督が  
築いてきたチームのマネジメント術や、澤選手に引き継いだキャプテンシー  
成績が思うように行かない時期、どのようにして佐々木監督とチームをまとめ  
支えて行こうと話して来たのか等、「今のなでしこ日本に最も近い存在」の  
1人ならではのこぼれ話をお伝えし、諦めないことの大切さや苦しいときこそ  
チーム一丸となって踏ん張る為の精神力の在り方のヒントをお届け致します。



### 「遅咲きデビューのプレッシャーを自分の成長へ～わたしのなでしこキャプテン人生」

勉強嫌いなわたしに何か取り組めるものにと、母が薦めてくれたのが、  
スポーツでした。

小学校ではバレーボール、中学校では陸上とサッカーとはまったく違  
ったスポーツに取り組み、16歳で初めてサッカーボールを蹴りました。  
高校から始めたサッカーでなでしこリーグに所属するチームへの入団、  
そしてなでしこ日本入り、キャプテンとしてオリンピックに出場させて  
頂くことが出来ました。

好きだったサッカーですが、なでしこ日本に選出されると、代表レギ  
ュラーに囲まれた環境でプレッシャーや怖さが襲い、代表召集のときは  
遠征拒否に陥り前日は家で泣いたものです。そんなわたしが任命を受け  
た、更に重い「キャプテン」という役割。大きなプレッシャーを自分の成長  
のための試練として、わたしなりの方法でチームをまとめられるよう努め、  
後任の澤選手に引き継ぎました。



一般的に見れば、想像がつかないようなストーリーかもしれませんが、  
もちろん私は特別な才能を持っているわけでもありません。誰でも、必ず  
諦めなければやりたいことが出来るのです。

こんなわたしのプレッシャーや壁にぶつかったときの乗り越え方が、  
皆さんの生きるヒントに少しでもお役立て出来たらうれしいです。



## 【講演実績】

NTT 中国支店、日本ユニシス、埼玉県戸田市、SCIX、大和ハウス、関西ロータリークラブ、埼玉県川越青年会議所 他多数